

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【城南中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	習熟の度を高めるために ・ 定期テストを年間の学習の節目として大切に、事前のチャンスタイムの設定と事後のやり直しテストにより学習効果・反復効果を高める ・ 「個別授業」を多く行い個に対応しつつ、「個別最適な学び」実現のために授業スタイルの移行を検討・実践する
思考・判断・表現	活用のあり方を再度検討し、効果を上げるために ・ 定期テスト中の「思考問題」、授業中の「表現課題」を集約し、研修時にそのあり方や適切さを検討する ・ 教科授業以外のあらゆる場面(学級活動・道徳・総合的な学習の時間を含む)での「思考」を大切にできるようにする

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 知識・技能の習得に課題が見受けられる生徒が多い <指導上の課題> 「個別最適な学び」を進めるにあたっての支援のあり方を工夫・改善すること	⇒ ○ 「個別進度学習」を取り入れた一人ひとりの生徒の実態に応じた授業【10月以降1～2単元で】 ○ 生徒が自分自身の実態を知り、適切な学習を方法を探る場を設定した授業【教科は同上・学活等で適宜】 ○ 知識・技能の定着の促進を図る反復学習を含む授業【2学期以降やり直しテスト・3学期に家庭学習の手引き】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 知識・技能の習得、語彙に関わる経験の不足 文を組み立てて文章化して説明することの困難 → 基本的事項の習得不足が思考・判断・理解の支障に直結している <指導上の課題> 記述力を高めるための説明場面の設定	⇒ ○ 教科の特性や授業の題材に応じた記述場面が設定された授業【2学期以降定期テストで・適宜授業中に】 ○ よりよい説明の例示と評価語彙の提示による生徒相互で鍛えあえる授業【個別進度学習の進行に伴って適宜】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	「個別最適な学び」には学習方法の習得も含まれること、そのための授業改善にあたる必要があること、などに言及し、授業の改善に当たり始めたところは学校としてよい傾向である 生徒一人ひとりの有用感を高める工夫は十分に凝らされていない 家庭学習の必要性は折に触れ話しているが、有用感に理解はされていても具体的な学習方法に言及されていないのでこれも今後の課題である
思考・判断・表現	C	特別活動等での話し合い活動や自己決定といったプロセスが、各教科の学習にも大きく影響することは共通理解されていると思われる とすると「表現」に目が行きがちであるが、「思考」させる場面で、何を求めて見取ろうとし、評価をどのように行うのかという点での研究を進める必要がある これら活用は、国語力と密接に関係しているので、小・中連携を十分に意識した国語力アップが急務であろう 図書館の利用率や利用の意欲に工場が見られるので、今後も活動を強化していく

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	「言葉の特徴や使い方に関する事項」について漢字の習得も含めて困難があり、無回答率も要約や説明を求められる問いで高い 一つひとつの単語の意味を紙の辞書で丹念に調べたり、それを使った短文を作ったりするような活動、本文を段落ごとに要約したりし、間を作ったりすることにより地道に「日本語慣れ」をさせたい 数学では「数と式」「図形」「関数」といった基礎的・基本的事項の習得をより一層進めることが求められている。習得にあたって「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を用いて反復演習する時間を授業内に設けるほか、長期休業中にはそれらを用いた家庭での学習を強く求めていく必要を感じる
思考・判断・表現	国語では総じて記述式、短答式の問題形式には苦戦していて、「国語力」向上の取り組みは本校喫緊の課題である 「言葉の特徴や使い方に関する事項」についての困難は「思考力・判断力・表現力等」の「書くこと」「読むこと」に直接関わる課題となっていると考えられ、無回答率も要約や説明を求められる問いで高くなっていて、すべての学年で、調べた単語を使った短文づくりから経験を積ませ、全体の意味が通る段落を構成、文章を仕上げる工夫を求めたい 数学でも記述式問題形式で苦戦していることがうかがわれる。基礎的・基本的事項の定着の上で、国語力とも関連させながら、解決を図りたい

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③分析共有(児童生徒の実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	1～2学年の国社数理、のべ4教科の内、1学年理科が市平均を上回っている 全体的な傾向としては学習その都度の丁寧な積み上げと、反復学習による学習内容の保持に弱みがある 日常の授業の中での受け身一方の学習(チョーク&トークを聞くだけ)から、自ら学び脳内に蓄積するような学習スタイルへの変更が求められる タブレット端末を用いた反復学習教材(スタサプやドリルパーク)を活用して、家庭における学習時間を確保することは急務である
思考・判断・表現	1～2学年の国社数理、のべ4教科の内、1学年理科が市平均を上回っている。 思考・判断・表現という活用は、基礎的な内容の徹底的な習得の上に成り立つことから、知識・技能の反復学習と学習方法の構築(各人に合った学習方法のシステム化)が求められる。 「個別最適な学び」の中には学習方法の習得も含まれていることから、授業スタイルの中に学習方法を織り込むことの検討は、特に本校の成績傾向であれば強く求められるところであると考ええる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	1学期の研究推進委員会で「個別進度学習」に取り組むことを決定、各教科で夏季休業に授業計画を練り直し、2学期中盤以降に、生徒が自分自身の実態を知り、一人ひとりの実態に応じた適切な学習活動が進むような授業を本格的に行う やり直しテストへの呼びかけは2学期期末テスト以降に行う	変更はなし
思考・判断・表現	C	今年度10月の指導訪問は「学級活動・道徳・総合的な学習の時間」となるが、この中では「個」に焦点をあてた工夫が行えるように指導案の書式を提案した。主に話し合いや自己決定、協働等、「個別進度学習」と直結した授業展開を期待している。 国語力向上に関わって、時程表の見直しを行い、朝の読書活動を復活させた	図書館と連携した授業を研究課題として加える

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)